

事業評価シート

番号 0660080 - 001

【1.基本情報】

事業名	文化財説明板設置・修繕事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和38年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	岐阜市内の文化財及び歴史的な場所についての周知と認識の高揚を図り、まちづくり、人づくりに活用する。	
事業の内容	岐阜市の文化財及び歴史的なゆかりのある場所について、広く一般に周知するため、説明板及び案内標識等の設置を行う。	
事業の対象	何を	文化財説明板、文化財案内標識、歴史案内標識
	誰に (対象者・対象者数)	一般市民、その他岐阜市への来訪者
	どのくらい (具体的数値で)	設置可能指定文化財で未設置説明板(5件)、新指定文化財のうち2基
令和2年度 (実施内容)	新指定された市天然記念物「真性寺のサルスベリ」や「真長寺の文化財」の説明板を設置した。また、「三輪神社の文化財」「乙津寺の文化財」などの板面貼替えを実施した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	476	15	850	25	1,138	35
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	476	15	850	25	1,138	35

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		237	445	529
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	工事負担	137	214	140
	修繕料	100	231	389
減価償却費 【施設管理】※ (C)				
計(D)=B+C		237	445	529

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	713	1,295	1,667

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	713	1,295	1,667

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	来訪市民及び文化財所有者	来訪市民及び文化財所有者	来訪市民及び文化財所有者
受益者数	410,000	410,000	465,000
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	2	3	4

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	新規設置数	単位	基
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	2	3
実績値	2	1	2

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	岐阜市民であることに誇りを感じる割合	単位	%
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			55(令和6年度)
実績値			53.2
達成状況			—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	現地を訪れた全ての人に当該文化財等の由来や歴史的意義を分かりやすく提供するための手段として必要である。 文化財普及啓発事業は市教育委員会が行う事務として法令で規定されている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	外国語表記も含めて表現や視覚効果等を考慮して設置しており、身近に歴史的価値を知っていただく手段として有効である。 設置・維持管理費用を確保する方策として、説明板への広告掲載などの検討も今後必要と考えている。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	本市に所在する文化財や歴史的に重要な意味を有する施設などの情報を市民や来訪者に分かりやすく提供する手段として非常に効果大きい。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	市民や来訪者が等しく受益するものであり、公平である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	既設の説明板は老朽化が進み、状況に応じて逐次改修や更新をしていく必要がある。また、文化財の新規指定により説明板新規設置対象が毎年度生じることから、状況に応じた計画的な設置・更新等を進めていく必要がある。 併せて、外国語表記については、外国の方がすぐに理解できる高度な表記(翻訳)が求められており、今後、翻訳方法について費用対効果を鑑みながら再検討していく必要がある。

事業評価シート

番号 0660080 - 002

【1.基本情報】

事業名	元町1丁目織田塚保存会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	元町1丁目織田塚保存会
実施期間	昭和32 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	織田信長公の美濃進出の過程を伝える岐阜市史跡「織田塚」の保存と活用を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化を支援する。	
事業の内容	元町1丁目織田塚保存会に対する運営費補助。会の主な活動内容は、市史跡「織田塚」(市所有地)の除草、樹木の剪定、清掃、献花等。	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	元町1丁目織田塚保存会
	どのくらい (具体的数値で)	団体総事業費(令和2年度 18,402円)の約50%
令和2年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	34	1	33	1
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	32	1	34	1	33	1

(2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)	10	10	10
直接事業費の主な内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目 補助金	10	10	10
減価償却費 【施設管理】※ (C)			
計(D)=B+C	10	10	10

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E) =A+D	42	44	43

【4.収入】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			0
県支出金			0
市債			0
使用料・手数料			0
その他			0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	42	44	43

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	7	7	7
受益者負担額(千円)	7	7	7
受益者負担率(%)	16.8%	15.9%	16.5%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	5,957	6,286	6,071

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		千円
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	10	10	10
実績値	10	10	10

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	単位		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			
実績値			
達成状況			

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	地域住民を中心に、市民が守り受け継いできた市文化財の市民参加による保護活動である。 文化財を市民とともに守り伝える事業として、市が支援すべき市民活動である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	史跡は市有地であり本来は市で管理すべきところを、市民自身で管理いただいているものであり、市の支援手段として有益である。 市民が主体的に管理していただいております、市民協働そのものである。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	市の歴史遺産の保存や普及において、市民主体で守り、受け継がれている活動への支援策として非常に有効である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	当事業を通じて活動が継続することで、地域の人材育成や活性化などに寄与するものであり、特定者に利益を供与するものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	市内に278件ある文化財(令和元年時点)の中で、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。補助金交付の公正・公平を確保するため、交付要綱を改正して事業補助に切り替えるとともに、補助対象者を公募する方向での改善を進める。

事業評価シート

番号 0660080 - 003

【1.基本情報】

事業名	中将姫誓願桜保存会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	中将姫誓願桜保存会
実施期間	昭和62年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	国指定天然記念物「中将姫誓願ザクラ」の保存と活用を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。	
事業の内容	中将姫誓願桜保存会に対する運営費補助。会の主な活動内容は、総会・観桜会の開催、開花期における道案内の設置等。	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	中将姫誓願桜保存会
	どのくらい (具体的数値で)	団体総事業費(令和2年度 590,981円)の約6%
令和2年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付した	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	34	1	33	1
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	32	1	34	1	33	1

(2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)			
	40	40	40
直接事業費の主な内訳			
項目 補助金	40	40	40
減価償却費【施設管理】※(C)			
計(D)=B+C	40	40	40

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	72	74	73

【4.収入】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	72	74	73

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	567	527	475
受益者負担額(千円)	567	527	475
受益者負担率(%)	790.8%	712.2%	655.2%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	126	140	153

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		単位
	千円		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	40	40	40
実績値	40	40	40

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	単位		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			
実績値			
達成状況			

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民参加による文化財の保護活動であり、地域ニーズも高い。 文化財保存に関する取組みを市民参加により行っている団体への助成であり必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	最小限の負担で貴重な文化財保存・継承活動を支援するものであり、有効である。 国・県の補助事業に適合するものがあれば適宜申請することも今後検討していく。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	貴重な文化財保存・継承活動に寄与するものであり、中将姫誓願桜の名は県外にも知られ、桜の開花時期には、各地から毎年多くの来訪者があることから、非常に有効である。(なお、令和2年度の観桜会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から行事中止となり、供養祭のみ実施した。)
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市の文化財の保存・継承に資する事業であり、特定者に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	市内に278件ある文化財(令和元年時点)の中で、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。補助金交付の公正・公平を確保するため、交付要綱を改正して事業補助に切り替えるとともに、補助対象者を公募する方向での改善を進める。

事業評価シート

番号 0660080 - 004

【1.基本情報】

事業名	中山道加納宿文化保存会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	中山道加納宿文化保存会
実施期間	昭和54 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	旧中山道とその宿場町であった加納宿にある歴史資産の保存と活用を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。				
事業の内容	中山道加納宿文化保存会に対する運営費補助。会の主な活動内容は、会誌「中山道加納宿」の発行、歴史講演会、歴史講座の開催、イベント時におけるPR活動等。				
事業の対象	何を	補助金			
	誰に (対象者・対象者数)	中山道加納宿文化保存会			
	どのくらい (具体的数値で)	団体総事業費(令和2年度 1,486,950円)の約5%			
令和2年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付した。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	34	1	33	1
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	32	1	34	1	33	1

(2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)	80	80	80
直接事業費の主な内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目			
減価償却費 【施設管理】※ (C)			
計(D)=B+C	80	80	80

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E) =A+D	112	114	113

【4.収入】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	112	114	113

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	314	278	249
受益者負担額(千円)	314	278	249
受益者負担率(%)	281.1%	243.9%	221.3%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	356	410	452

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		単位
	千円		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	80	80	80
実績値	80	80	80

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	単位		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			
実績値			
達成状況			

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	中	市民参加による歴史資産や文化財の保存、継承活動であり、地域ニーズも高い。 文化財保存に関する取組みを市民参加により行っている団体への助成であり必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	最小限の負担で貴重な歴史資産や文化財の保存・継承活動に寄与するものであり、有効である。 保存会活動の中で、国・県の補助事業に適合するものがあれば適宜申請を今後検討する。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	貴重な文化財保存・継承活動に寄与するものであり、地域の活性化やまちづくり振興においても有効と見込まれる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市の歴史資産の保存・継承に資する事業であり、特定個人に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	改善 (統合・縮小含む。)	市内に278件ある文化財(令和元年時点)の中で、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。補助金交付の公正・公平を確保するため、交付要綱を改正して事業補助に切り替えるとともに、補助対象者を公募する方向での改善を進める。

事業評価シート

番号 0660080 - 005

【1.基本情報】

事業名	琴塚顕彰協会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	琴塚顕彰協会
実施期間	昭和25 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	国史跡「琴塚古墳」の保存と顕彰を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。	
事業の内容	琴塚顕彰協会に対する運営費補助。会の主な活動内容は、琴塚古墳の除草・清掃・見廻り、琴塚顕彰祭の開催、見学者(小学校遠足・個人訪問)への説明等。	
事業の 対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対 象者数)	琴塚顕彰協会
	どのくらい (具体的 数値で)	団体総事業費(令和2年度 70,000円)の約57%
令和2年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付した	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	34	1	33	1
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	32	1	34	1	33	1

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		40	40	40
直接事業費の主 な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	補助金	40	40	40
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		40	40	40

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	72	74	73

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	72	74	73

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	会員	会員	会員
受益者数	316	316	338
受益者負担額(千円)	30	30	30
受益者負担率(%)	41.8%	40.5%	41.4%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	227	234	214

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		千円
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	40	40	40
実績値	40	40	40

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	単位		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			
実績値			
達成状況			

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民参加による文化財の保護活動であり、地域ニーズも高い。 文化財保存に関する取組みを市民参加により行っている団体への助成であり必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	史跡は公有地であり、本来は市で管理すべきところの一部を市民が協力している。 国・県の補助事業に適合するものがあれば適宜申請することも今後検討していく必要がある
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	貴重な史跡の保存・継承に寄与するものであり、地域の活性化やまちづくり振興においても有効と見込まれる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市の歴史資産の保存・継承に資する事業であり、特定個人に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	市内に278件ある文化財(令和元年時点)の中で、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。補助金交付の公正・公平を確保するため、交付要綱を改正して事業補助に切り替えるとともに、補助対象者を公募する方向での改善を進める。

事業評価シート

番号 0660080 - 006

【1.基本情報】

事業名	高桑太鼓保存会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	高桑太鼓保存会
実施期間	昭和63 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	柳津地域の郷土伝統芸能で市指定無形民俗文化財である、高桑太鼓を伝承するため、後継者を育成するとともに、地域活動等に参加し普及・啓発を図り、地域社会の活性化に貢献する。	
事業の内容	市指定無形民俗文化財の高桑太鼓の伝承のため、後継者を育成するとともに、地域活動等に参加し普及・啓発を図り、地域社会の活性化に貢献する事業に対し、補助金を交付する。	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	高桑太鼓保存会
	どのくらい (具体的数値で)	団体総事業費(令和2年度 120,344円)の約25%
令和2年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により令和2年度の活動が中止となったため、補助金の全額返還となった。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	34	1	33	1
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	32	1	34	1	33	1

(2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)			
	30	30	0
直接事業費の主な内訳			
項目			
補助金	30	30	0
減価償却費 【施設管理】※ (C)			
計(D)=B+C	30	30	0

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E) =A+D	62	64	33

【4.収入】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	62	64	33

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	42	42	42
受益者負担額(千円)	0	10	9
受益者負担率(%)	0.0%	15.6%	27.7%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,469	1,524	774

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	30	30	—
実績値	30	30	—

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名			単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			
実績値			
達成状況			

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市無形民俗文化財の保存・継承活動である。 本市の歴史資産である文化財を維持するために必要な経費である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	最小限の負担で貴重な歴史資産や文化財の保存・継承活動に寄与するものであり、有効である。 国、県、民間の補助事業に適合するものがあれば適宜活用していく。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	貴重な文化財保存・継承活動に寄与するものであり、地域の活性化やまちづくり振興においても有効と見込まれる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市の歴史資産の保存・継承に資する事業であり、特定個人に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	市内に278件ある文化財(令和元年時点)の中で、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。補助金交付の公正・公平を確保するため、交付要綱を改正して事業補助に切り替えるとともに、補助対象者を公募する方向での改善を進める。

事業評価シート

番号 0660080 - 007

【1.基本情報】

事業名	長良川流域の文化的景観保存調査事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	良好な都市空間づくりの推進			政策コード	6 - 1 - 0 - 0
実施方法	直営	補助の種類※		実施主体	岐阜市
実施期間	平成20年度～	年度	根拠法令 関連計画※	文化財保護法、景観計画、歴史的風致維持向上計画、重要文化的景観 長良川中流域における岐阜の文化的景観整備計画	

【2.事業概要】

事業の目的	ぎふ長良川の鵜飼をはじめとする豊かな漁業文化の舞台となってきた流域や道三・信長の都市計画を伝える旧城下町の文化的景観の価値を明らかにし、良好な景観の継承と望ましい景観形成の仕組みを作るため。				
事業の内容	①文化的景観保存調査 ②文化的景観保存計画の策定 ③文化的景観選定の申出・選定 ④修理・整備・復旧防災等の事業。				
事業の対象	何を	国重要文化的景観選定による文化財を活かしたまちづくりの推進			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民			
	どのくらい (具体的数値で)	重要文化的景観による文化財として価値づけ、国の支援			
令和2年度 (実施内容)	前年度から引き続き、重要な構成要素である正法寺の大仏殿及び岐阜大仏を併せ、3次元測量を実施し、得られたデータを基に3D動画を作成した。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	6,340	200	6,800	200	6,500	200
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	6,340	200	6,800	200	6,500	200

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		24,792	7,004	4,675
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	委託	6,687	6,011	3,198
	印刷製本	1,512	0	957
	報償	155	327	227
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		24,792	7,004	4,675

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	31,132	13,804	11,175

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金	11,896	2,870	1,883
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	11,896	2,870	1,883

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	19,236	10,934	9,292

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	410,000	410,000	410,000
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	47	27	23

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	長良川流域の文化的景観検討委員会開催数	単位	回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	2	2
実績値	1	2	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	伝統的家屋等詳細調査件数	単位	回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	1	1	1
実績値	1	1	1
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	本市の歴史・観光資源であり、市民共通の財産として最も重要な金華山・長良川流域の景観形成や継承を図る上で必要不可欠である。 景観を守っていくためには行政だけでなく、そこに住む住民の理解も必要であり、事業推進にあたり常に市民と協働で実施することを意識していく必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	将来的な本市の歴史的価値や観光資源としての価値向上に大きく寄与するものであり、効果は非常に大きい。 周辺住民の理解も含めて、事業推進にあたっては市民協働を意識し推進していく。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	日本遺産の認定にあたって、文化的景観で得られた成果が大きく貢献した。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	当事業の成果は、本市の財産として市民が等しく享受するものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	景観計画や平成25年4月に認定された歴史的風致維持向上計画等の関係法令や計画との整合性、庁内関係課などとの調整を図りながら事業を推進する。

事業評価シート

番号 0660080 - 008

【1.基本情報】

事業名	原三溪顕彰事業補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	原三溪・柳津文化の里構想実行委員会
実施期間	平成24年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市郷土の偉人顕彰事業補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	原三溪の遺徳を顕彰し、柳津地域周辺のまちづくりのほか、市民の地域に対する理解と郷土愛の醸成に寄与することを目的とする。	
事業の内容	原三溪の業績の顕彰活動を行う。 市民を対象とした原三溪にかかわる見学会や研修会を行う。 関係機関、団体と協力して原三溪顕彰に関わる諸事業を行う。	
事業の対象	何を	市補助金
	誰に (対象者・対象者数)	原三溪・柳津文化の里構想実行委員会
	どのくらい (具体的数値で)	団体総事業費(令和2年度 298,214円)の約27%
令和2年度 (実施内容)	柳津地域周辺の小中学校において、研修会や講話を実施するとともに、原三溪ゆかりの場所を巡るマップの作成等を行った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	63	2	68	2	33	1
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	63	2	68	2	33	1

(2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)	500	500	80
直接事業費の主な内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目			
減価償却費 【施設管理】※ (C)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C	500	500	80

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E) =A+D	563	568	113

【4.収入】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	563	568	113

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	会員	会員	会員
受益者数	76	76	68
受益者負担額(千円)	606	2,638	198
受益者負担率(%)	107.6%	464.4%	176.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	7,413	7,474	1,654

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		単位
	千円		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	500	500	80
実績値	500	500	80

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	単位		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			
実績値			
達成状況			

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民参加による郷土の偉人の普及・啓発活動である 市が推進している偉人の顕彰に関する取組みを、市民参加により行っている団体への助成であり必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	近代日本の発展に貢献した郷土の偉人の普及・啓発に協力いただいております、補助金額に比して有効である。 市民主体の活動に対する助成であり、市民協働の取組みを支援するものである。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	地元の小中学校の総合学習等にも組み込まれ、各校で学習内容の充実が進むなど、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	郷土の偉人の顕彰事業は、市民が地域に対する理解を深め、郷土愛を醸成する基盤となるものであり、また、市民との協働のまちづくりと文化の向上に資するもので、特定個人に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	他の文化財保存活用団体等との公平性の確保に留意しつつ、顕彰事業の方向性を整理していく必要がある。

事業評価シート

番号 0660080 - 009

【1.基本情報】

事業名	加納城整備事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成12年度～	年度	根拠法令 関連計画※	文化財保護法	

【2.事業概要】

事業の目的	史跡や文化財を活かしたまちづくりを推進するために、市内の歴史遺産を調査・整備し、適切な維持管理と活用を行う必要がある。	
事業の内容	①加納城跡整備基本構想、史料調査、保存活用計画 ②本丸内発掘調査、調査報告書作成 ③本丸北東側堀跡内民有地買い上げ	
事業の対象	何を	加納城跡の整備による「歴史遺産を活かしたまちづくり」の推進
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客
	どのくらい (具体的数値で)	岐阜市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供
令和2年度 (実施内容)	本丸の石垣測量調査	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,585	50	1,700	50	1,625	50
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	1,585	50	1,700	50	1,625	50

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		4,455	3,605	1,658
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	委託料	3,597	3,605	1,428
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		4,455	3,605	1,658

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	6,040	5,305	3,283

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金	1,654	1,714	950
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	1,654	1,714	950

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	4,386	3,591	2,333

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	岐阜市民、観光客	岐阜市民、観光客	岐阜市民、観光客
受益者数	220,000	220,000	220,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	20	16	11

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	調査面積	単位	m ²
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	200	200	200
実績値	219	264	165

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	岐阜市民であることに誇りを感じる割合	単位	%
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	50	52	53
実績値	52.9	51.6	52
達成状況	○(達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	岐阜市の貴重な歴史文化資源の一つとして全容を明らかにし、今後の保存及び活用に資するとともに、本市の独自性を全国にアピールしていく上で必要不可欠である。 当該史跡の管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜城に次ぐ歴史資産として、将来的な歴史文化的価値の明確化や新たな観光資源としての活用につながるものであり、非常に有為である。 史跡の調査、整備、活用については管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	石垣の測量により、現状把握及び将来の史跡整備に必要な基礎資料が得られている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	本市の歴史遺産として市民が等しく受益するものであり適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	国史跡加納城跡として今後保存管理計画や整備計画等を策定し、体系的な保存・活用の推進が求められている。しかし、文化財保護行政においては、他に解決すべき課題が多く存在しており、全体の進捗状況を見ながらバランスよく事業を進めていく必要がある。 維持管理については、関係部局と協議して効率のよい体制を構築していく。

事業評価シート

番号 0660080 - 010

【1.基本情報】

事業名	史跡岐阜城跡整備事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化			政策コード	3 - 4 - 0 - 0
実施方法	委託(出資団体)	補助の種類※	実施主体	(公財)岐阜市教育文化振興事業団	
実施期間	平成26年度～	年度	根拠法令 関連計画※	文化財保護法	

【2.事業概要】

事業の目的	国史跡岐阜城跡の調査や整備、活用を行い、岐阜市の観光振興、地域活性化に資する。史跡の管理団体として、適切な維持管理と整備活用を行う必要がある。	
事業の内容	山麓居館の整備及び山上部の発掘調査。整備計画等の策定と看板設置・修繕。石垣等の史跡の維持管理	
事業の対象	何を	史跡岐阜城跡の保存活用による「文化財を活かしたまちづくり」の推進
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客
	どのくらい (具体的数値で)	約40万市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供
令和2年度 (実施内容)	岐阜城山上部発掘調査を実施。また、山上部看板の修繕、樹木の剪定を行った。史跡岐阜城跡整備委員会及び発掘調査現地公開は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、未実施。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	22,190	700	23,800	700	22,750	700
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	22,190	700	23,800	700	22,750	700

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		52,688	41,608	38,145
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	委託料	33,758	38,301	30,320
	修繕料	229	428	39
減価償却費 【施設管理】※ (C)				
計(D)=B+C		52,688	41,608	38,145

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	74,878	65,408	60,895

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金	2,639	2,299	2,353
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	2,639	2,299	2,353

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	72,239	63,109	58,542

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	岐阜市民、観光客	岐阜市民、観光客	岐阜市民、観光客
受益者数	220,000	220,000	220,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	328	287	266

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	委員会会議回数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	2	3
実績値	1	1	—

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	発掘調査現地公開参加者数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	400	1,200	800
実績値	1,200	3,500	—
達成状況	○(達成)	○(達成)	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民や歴史ファンへの関心度が高く、全国に岐阜市をPRするために欠かせない。 維持管理については金華山国有林の管理者である林野庁も実施しているが、史跡の調査、整備、活用については管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	新聞・テレビ等の報道による宣伝効果は非常に高い。 史跡の管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込み) ※【2】【7】から	高	岐阜市の歴史文化を明らかにし、都市の独自性を全国にアピールしていく上で欠かせない。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	当事業による成果は、本市の歴史遺産として市民が等しく受益するものであり適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)-廃止)	改善 (統合・縮小含む。)	岐阜市を全国にPRするうえで欠かせない事業と考える。引き続き山上部の発掘調査を実施するとともに、保存活用計画の策定、整備基本計画の見直しを行う。山上部の発掘調査における市民・観光客の関心は非常に高い。マスコミ等への情報提供、広報広聴課等との連携により情報発信の質を高めていく。

事業評価シート

番号 0660080 - 011

【1.基本情報】

事業名	信長学フォーラム				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	生涯を通じたいきがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成20年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	発掘調査事業及び史跡整備等のハード事業に対するソフト事業として、全国の信長公ファンを対象にシンポジウムを実施し、道三公・信長公のまち岐阜としての情報発信を行う。	
事業の内容	シンポジウム『信長学フォーラム』開催	
事業の対象	何を	信長公居館発掘調査・活用による「文化財を活かしたまちづくり」の推進
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客
	どのくらい (具体的 数値で)	岐阜市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供
令和2年度 (実施内容)	第14回信長学フォーラム	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	2,536	80	2,720	80	2,600	80
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	2,536	80	2,720	80	2,600	80

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		2,580	2,790	2,278
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	報償費	1,051	850	273
	印刷製本費		326	287
	委託料	1,350	1,386	1,496
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		2,580	2,790	2,278

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	5,116	5,510	4,878

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	5,116	5,510	4,878

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン
受益者数	600	600	250
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	8,527	9,183	19,512

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	参加者数	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	500	500	250
実績値	523	509	153

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	満足度(参加者アンケート)	単位	%
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	95	95	95
実績値	93	80	89
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	毎回定員を超える申し込みがあり、ニーズが高い。 道三公・信長公のまち岐阜をPRする上で直接実施する必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜市の独自性を全国にアピールする効果が高い。 行政だけでなく、民間団体と協働して、道三公・信長公のまち岐阜をPRしていくことで、さらに都市ブランドを構築していくことができる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	発掘事業とあわせて、本市の歴史的成り立ちを市民が学ぶ機会として、また、都市の独自性を全国にアピールしていく上で有為である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	信長公の事績を中心に本市の歴史資産の重要性を広く市民と共有するもので、市民が公平に受益するものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	「信長学」、「道三公・信長公のまち岐阜」を全国にPRするために、行政だけでなく民間団体と協働して盛り上げていく必要がある。 各課に協力を依頼していたイベント当日の受付・誘導業務を業務委託するなど、職員の負担軽減と業務効率化を進める。 大河ドラマと連動して開催するなど、内容面のブラッシュアップを行っていく。

事業評価シート

番号 0660080 - 012

【1.基本情報】

事業名	信長塾				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	生涯を通じたいきがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成21年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	発掘調査事業及び史跡整備等のハード事業に対するソフト事業として、信長公とその時代に関する歴史講座を開催する。	
事業の内容	講座「信長塾」開催	
事業の対象	何を	信長公居館発掘調査・活用による「文化財を活かしたまちづくり」の推進
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客
	どのくらい (具体的な数値で)	約40万市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供
令和2年度 (実施内容)	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	634	20	680	20	0	0
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	634	20	680	20	0	0

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		255	239	0
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	報償費	250	180	0
	旅費	5	0	0
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		255	239	0

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	889	919	0

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	889	919	0

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン
受益者数	200	200	0
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	
受益者1人当たりのコスト(円、一般財源ベース)	4,445	4,595	

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	参加者数(延べ人数)	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	900	900	—
実績値	810	853	—

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	満足度(参加者アンケート)	単位	%
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	90	90	—
実績値	87	90	—
達成状況	○(達成)	○(達成)	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	毎回定員を超える申し込みがあり、ニーズは非常に高い。 信長公を通じた本市の歴史的成り立ちや事績を発掘調査成果なども踏まえて市民と共有し、さらに、道三公・信長公のまち岐阜として全国に発信し、本市の観光振興にも資するための事業として市が直接実施する必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	信長公を核とする戦国期における本市の歴史的重要性や独自性を学び、発信する機会として効果が高い。 行政だけでなく、民間団体と協働して「道三公・信長公のまち岐阜」をPRしていくことで、さらに都市ブランドを構築していくことができる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	本市における信長公の歴史的重要性を広く市民が学ぶとともに、道三公・信長公のまち岐阜としての本市の独自性をアピールすることに寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	本市の歴史遺産を学ぶ機会として市民が等しく受益するものであり適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	「信長公」「道三公・信長公のまち岐阜」を全国にPRするために、講座を通じてふるさとの歴史を市民が学び、来訪者に還元できるように人材を育成する必要がある。 毎年定員を上回る申込がある人気講座であるため、低予算で質の高い講師の発掘に努め、より高い満足度となるようにしていく。

事業評価シート

番号 0660080 - 013

【1.基本情報】

事業名	長良川鵜飼文化未来継承事業（旧・鵜飼の総合的調査事業）				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市 他	
実施期間	平成17年度～	年度	根拠法令 関連計画※	無形文化遺産保護条約、文化財保護法、世界遺産化戦略プログラム、重要無形民俗文化財保存活用計画等	

【2.事業概要】

事業の目的	長良川の鵜飼文化の価値や魅力を高め、守り、未来へと継承していく。そのための手段として、長良川鵜飼世界遺産化戦略プログラム(平成27年度策定)に基づき、ユネスコ無形文化遺産登録を目指す取組をオール岐阜で推進する。				
事業の内容	4つの細事業である【Ⅰ】ユネスコ申請準備、【Ⅱ】魅力発信、【Ⅲ】保存活用、【Ⅳ】総合調査を一体的に取り組み、SDGs未来都市・岐阜市が推進している持続可能な都市づくりをさらに加速させる。				
事業の対象	何を	鵜飼文化の価値や魅力の顕在化、継承及びそれを活かした観光まちづくりの推進			
	誰に (対象者・対象者数)	鵜飼文化を支えるコミュニティ(岐阜市民 約40万人5千人、鵜匠家 6軒、職人 数名(近年減少)、観光業関係者 多数、地方自治体 岐阜県・関市・日立市等、国機関 文化庁・宮内庁等、学識経験者 多数、NPO 多数)			
	どのくらい (具体的数値で)	無形文化遺産登録の達成による市民のシビックプライド向上及び「世界のGIFU」、「世界のUKAI」としての観光ブランドの確立			
令和2年度 (実施内容)	【Ⅰ】ユネスコ申請準備…情報収集及び整理分析(文化庁、有識者等) 【Ⅱ】魅力発信…小学生向け冊子「長良川の鵜飼 まるわかりポケット図鑑」の活用 【Ⅲ】保存活用…重要無形民俗文化財「長良川の鵜飼漁の技術」保存活用計画作成、舟大工育成 【Ⅳ】総合調査…鵜の生態調査				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	6,340	200	6,800	200	6,500	200
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	6,340	200	6,800	200	6,500	200

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		4,273	5,564	2,653
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	旅費	779	820	372
	委託料	2,323	2,958	0
	負担金補助及び交付金	127	698	971
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		4,273	5,564	2,653

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	10,613	12,364	9,153

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			900
市債			
使用料・手数料			
その他	147	1,555	483
計(F)	147	1,555	1,383

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	10,466	10,809	7,770

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	岐阜市民、鶺鴒観覧者等	岐阜市民、鶺鴒観覧者等	岐阜市民、鶺鴒観覧者等
受益者数	220,000	220,000	220,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	48	49	35

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	委員会の開催回数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	2	2
実績値	1	1	2

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	「岐阜市の魅力は何か」という質問に対する「鶺鴒」という回答の割合・順位		%・順位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	56.0%・4位	58.0%・3位	58.0%・3位
実績値	57.2%・4位	58.0%・4位	55.6%・4位
達成状況	○(達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	鶺鴒文化は市民にとって魅力ある存在であり(令和2年度市民意識調査第4位(55.6%))、さらなるブランディングは社会のニーズに合っている。コロナ禍を乗り越えるべく新たな時代を生きる市民にとって、無形文化遺産登録という夢は、今こそ希望の光となりうる。 鶺鴒文化の価値や魅力を高め、守り、未来へと継承していくには、鶺鴒匠たち継承者、行政、市民、応援団をはじめとする各種団体など、オール岐阜で取り組む必要がある。その中でも、市がリーダーシップをとり、事業の先導役を担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	鶺鴒文化は市にとって重要な観光資源であるとともに、1300年以上の歴史と伝統を有する文化遺産である。本物志向の観光まちづくりを推進していく上で、鶺鴒文化のさらなるブランディングを行い、国内外にアピールしていく効果は高い。 鶺鴒文化の確実な保存・継承に直接的な効果をもたらす取組が急務であるが、鶺鴒文化を支える技術の担い手は県内各地に分布しており、鶺鴒文化に関連する河川や山林なども複数の市町にまたがるため、広域的な事業展開が求められる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	【IV】総合調査の成果として、平成27年に「長良川の鶺鴒漁の技術」が国重要無形民俗文化財に指定、「『信長公のおもてなし』が息づく戦国城下町・岐阜」が日本遺産に認定、「清流長良川の鮎〜『里川』における人と鮎のつながり〜」が世界農業遺産に認定された。 【III】保存活用の成果として、令和2年度に鶺鴒観覧船造船所で鶺鴒舟の造船に初挑戦し、鶺鴒舟を1艘完成させることができた。同時に、今後も鶺鴒舟の造船・舟大工育成を継続することのできる体制を構築し、持続可能な鶺鴒の実現に向けて大きく前進することができた。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	文化財は、わが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできない国民的財産である。国重要無形民俗文化財「長良川の鶺鴒漁の技術」をはじめ、様々な文化財で構成される長良川鶺鴒文化を未来へと継承する本事業において、その利益は国民、特に市民が等しく享受すべきものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	従来、「鶺鴒の総合的調査事業」として【IV】総合調査を重視してきた本事業だが、令和2年度に事業全体を大きく見直し、「長良川鶺鴒文化未来継承事業」へと改善した。鶺鴒文化の未来への継承を真の「目的」とし、ユネスコ無形文化遺産登録を目指す取組を「手段」として位置付けた。事業内容についても、【II】魅力発信や【III】保存活用など、多岐にわたる事業が展開できるように再構築した。当面は現状維持しつつも、常に課題意識を持ち、必要に応じて事業の改善を進めていく。

事業評価シート

番号 0660080 - 014

【1.基本情報】

事業名	日本遺産推進事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化			政策コード	3 - 4 - 0 - 0
実施方法	補助	補助の種類※	その他負担金	実施主体	日本遺産「信長公のおもてなし」 岐阜市推進協議会
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	平成27年度に日本遺産第1号に認定された「信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜」を全国にPRする。				
事業の内容	情報発信、日本遺産ガイド育成、再現映像作成、日本遺産サミットにおけるPR事業等				
事業の対象	何を	日本遺産による岐阜市の認知度向上、ブランド化、地域の誇りの醸成			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客			
	どのくらい (具体的数値で)	岐阜市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供			
令和2年度 (実施内容)	日本遺産ガイド育成事業、日本遺産フェスティバルでのPR、ぎふ歴史探訪マップ作成・配布を実施した。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,268	40	1,360	40	1,300	40
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	1,268	40	1,360	40	1,300	40

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		1,294	7,014	5,154
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	負担金	1,294	7,014	5,154
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		1,294	7,014	5,154

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	2,562	8,374	6,454

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			4,146
県支出金		2,400	
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	2,400	4,146

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	2,562	5,974	2,308

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	岐阜市民、歴史ファン	岐阜市民、歴史ファン	岐阜市民、歴史ファン
受益者数	10,000	10,000	10,000
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト(円、一般財源ベース)	256	597	231

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	ツアーガイド育成数	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	15	20	20
実績値	15	30	30

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	満足度(ツアー参加者アンケート)	単位	%
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値		90	90
実績値		84	92
達成状況		×(未達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	国が認定する日本遺産をPRする事業であり、観光誘客にも効果が高い。 民間団体も含めた協議会で実施しているが、文化庁とも連携する必要があり、道三公・信長公のまちとして全国に発信し、本市の観光振興にも資するための事業として、市が関与する必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	道三公や信長公を活かしたまちづくりや観光誘客を行う上で、効果が高い。 協議会だけでなく、民間団体と協働して道三公・信長公のまち岐阜をPRしていくことで、さらに都市ブランドを構築していくことができる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	全国に道三公・信長公のまちとしての本市の独自性をアピールすることに寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	本市の魅力外来訪者が等しく受益するものであり適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善(統合・縮小含む)	「日本遺産」そのものの知名度を向上させることが必要であり、国や他の認定地域と連携して事業を進める必要がある。道三公・信長公のまち岐阜を全国にPRするために、ガイド研修事業等を通じて、人材を育成する必要がある。日本遺産の補助金は平成29年で終了。今年度(令和2年度)から3か年計画にて、地域文化財総合活用推進事業(地域計画等)の補助金制度を活用。事業内容について随時検証していく必要がある。

事業評価シート

番号 0660080 - 015

【1.基本情報】

事業名	岐阜まつり記録保存調査事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	令和2 年度～	令和7 年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財保護条例第1条、第22条	

【2.事業概要】

事業の目的	ふるさと岐阜の揺るぎない歴史を刻む「岐阜まつり」の伝統を継承し、シビックプライドの向上や地域振興のために、全国的な視点からの価値づけや祭礼道具などの総合調査を行い、県指定、国指定、さらにはユネスコ無形文化遺産の登録を目指す。	
事業の内容	調査委員会を組織し、委員会の指導のもと祭礼に関わる各分野の専門家(民俗、文献、建築、金工等)に依頼し、記録保存調査を行うとともに、山車、神輿等の実測、撮影を行い、『(仮称)岐阜まつり総合調査報告書』にまとめ刊行する。	
事業の対象	何を	市無形民俗文化財を活かした観光・交流の活性化
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民
	どのくらい (具体的 数値で)	県無形民俗文化財へのランクアップと観光資源としての活用
令和2年度 (実施内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜まつり文化財調査調整会議の設置及び調査委員会委員候補の検討 ・条例改正による調査委員会設置のための法整備 ・岐阜まつり準備等の調査を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、未実施 	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0		0		650	20
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	0	0	0	0	650	20

(2)物にかかるコスト

		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)				20
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	謝金			19
	旅費			1
減価償却費【施設管理】※(C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		0	0	20

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	0	0	670

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			98
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	98

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	0	0	572

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者			岐阜市民
受益者数			
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)			0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	連絡調整会議		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			2
実績値			1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	まつり準備等の調査		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			1
実績値			0
達成状況			—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	本市の歴史に大きく関わる岐阜まつりの歴史的・文化財的な価値を明らかにすることで、将来的に市民共有の財産として最も重要なものの一つ、かつ歴史・観光資源として大きな役割を果たすことが期待できる。 地元自治体の推薦者も含めた委員会の指導の下調査を実施しているが、県文化財部局、専門家との連携が必要であり、本市の観光振興にも資するための事業としても市が関与する必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	将来的に歴史・観光資源として観光振興等の地域活性化に寄与するものであり、効果は非常に大きい。 周辺住民の理解も含めて、事業推進にあたっては市民協働を意識し、民間活用も検討しながら効率的な手段を検討しつつ事業を推進していく。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	将来的に歴史・観光資源として観光振興等の地域活性化に貢献することが期待でき、岐阜市を代表する祭りとして非常に大きな効果が見込める。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	当事業の成果は、本市の財産として市民が等しく享受するものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	地元自治体との連携、関係法令や計画との整合性、庁内関係課などとの調整等を意識しながら事業を推進する。